

れきしのうた 1～平安

じょうもん やよい せいぎ やまとちょうてい しはい
縄文 弥生の時代がすぎて「4世紀」大和朝廷 日本を支配した

こふん はか
「民をあつめよ。古墳をつくるぞ。われらの墓じゃ」

ごうぞく ま さいご き しょうとくたいし
豪族 しだいに力をつけて「負けそうじゃ」最後の切りふだ 聖徳太子

せつしょう しょうとくたいし そがのうまこ
摂政になった聖徳太子 蘇我馬子と手をむすび

かんいじゅうにかい じゅうななじょう けんぼう ちょうてい けんい
官位十二階 十七条の憲法 朝廷の権威とりもどせ

ぶんか ぶつきょうどうにゆう
進んだ文化をとりいれようと 仏教導入はかったよ

おののいもこ けんずいし せいじ ぶつきょう せいじかいかく
小野妹子の 遣隋使 政治や仏教 学ばせた 政治改革すすめたよ

かいかく きょうりよく そがし
「改革に協力しよう。ただし、わが蘇我氏のじゃまをしてはイカンぞ」

「こりゃ あきまへん」

こよみ かみ けんちくぎじゆつ
暦にスミ、紙 建築技術

なら た ほうりゅうじ
奈良に建てられた法隆寺

かげ せいりよく そがし
だけどその影で勢力のばす 蘇我氏たち

たいし なくなり、ごうぞく そがし きょうだい
太子が なくなり、豪族の「あいつらか」蘇我氏の力はますます強大に

そがのいるか
「わしは蘇我入鹿。こわいものなしじゃ」

しょうとくたいし いちぞく やしき じさつ
聖徳太子の一族を「じゃまだと」屋敷をおそって自殺においこんだ

そが そが そが
蘇我にくしと中大兄皇子 中臣鎌足と

そが そが そが そが そが
儀式のさなかに隠れて矢をはなち 入鹿を殺したよ

そがし たいか かいしん
そのまま蘇我氏をほろぼして 645年 大化の改新
こうちこうみん はんでん せい ごうぞく ちょうてい せいじ
公地公民 班田の制 豪族の土地をとりあげて 朝廷の政治とりもどす

たいか かいしん ぜい のうみん
「大化の改新で税がふえて、農民はこまってるそうじゃ」

「こりゃ、あきまへん」

なら みやこ きょうと へいあんじだい
奈良から 都は 京都にうつり「794」平安時代になりました

かまくら まご ふひと むすめ てんのう
「鎌足の孫、不比等の娘が 天皇のきさきに なったそうな」

かまくら しそん ふじわら ちょうてい じつりよくしゃ
鎌足の 子孫は 藤原を名のり「今では」朝廷をしのぐ実力者

むすめ てんのう せっしょう かんぱく
娘をつぎつぎ天皇にとつがせて 摂政、関白 ひとりじめ

せいじ ふじわらいちぞく しょうえん
政治をあやつる藤原一族 荘園だってひとりじめ

よ ふじわらのみちなが
「この世は自分のためにある」と歌をよんだは藤原道長

むらさきしきぶ せいしょうなごん こきんわかしゅう たけとりものがたり へいあんぶんか
紫式部に 清少納言 古今和歌集 竹取物語 平安文化が花ひろく

けんとうし にほんぶんか
「遣唐使を やめたおかげで 日本文化が花ひらいたのう。

ふじわら
藤原あつての日本じゃがな」

「こりゃ あきまへん」

れきしのうた 2 平安末～室町時代

へいあん ぶしだん とうぞく じぶん とち
平安 武士団 生まれたのは「盗賊だ」自分の土地をまもるため
ちやうてい じぶん とち じぶん
「朝廷は まもってはくれん。自分たちの土地は自分たちで まもるのだ」
なかま なかま ぶしだん
仲間が仲間をよびあつめ「オレたちも」武士団だんだん 大きくなりました

きぞく げんじ へいし
名のある 貴族とむすびつき 源氏と平氏が生まれました
ぶし つか きぞく かんが
つごうがいいぞと、武士たち使っていた貴族 考えあまかった

ほうげん へいじ らん げんじ たいらのきよもり
保元、平治と乱おこり 源氏まかした 平清盛
ぶし き きぞく
武士のこわさに ようやく気づく 貴族たちはあわてるばかり
ぶし よ なか
武士の世の中の はじまりだ

きよもり だじょうだいじん むすめ てんのう
「清盛のヤツ、太政大臣になった上に、娘を天皇に とつがせたそうだ」
「こりゃ、あきまへん」

げんじ ちゃくなん みなもとのよりとも だとうへいけ へい
源氏の嫡男 源頼朝「ようやく」打倒平家に兵おこす
あにうえ おとうと よしつね みかた
「兄上、弟の義経です。お味方いたします」
きよもり やまい よ むすこ むねもり
清盛 病で この世をさって「むねんじゃ」息子の宗盛 あとついだ

いち たに やしま よしつね まえ へいけ ま いくさ
一の谷、屋島と義経の前に 平家は負け戦
さいご せとうち だんのうら き
最後は瀬戸内 壇ノ浦 海のもくずと消えました

よしつね よりとも
ヒーローとなった義経に まずいと思った頼朝は
よしつね かまくらばくふ いちいちきゆうに ぶし じだい
義経うちとり 鎌倉幕府 1192 うちたてた 武士の時代が はじまった

よりとも ちすじ ほうじょう じっけん
「頼朝の血筋がたえて、北条が実権をにぎったそうな」

「こりゃ、あきまへん」

いまに みておれと ごとばじょうこう
後鳥羽上皇

よりとも な
頼朝 亡きあと チャンスとばかり

へい まさこ ばくふ ま
兵をあげたけど 政子の幕府に 負けました

ほうじょういちぞく ばくふ しっけんせいじ てんか
北条一族 幕府を のっとして「なんてやつ」執権政治で天下をおさめたが

げんじ けらい しょうぐん
「もとは源氏の家来のわれら。将軍にはなれんしタイヘンじゃ」

げん か ぶし ふまんがお
フビライハンの 元がせめてきて「勝ったのに」ほうびもなくて武士は不満顔

ごだいごてんのう ぶし ばくふ
後醍醐天皇 この時ばかりと たち上がり 武士をまとめて幕府をほろぼした

けんむ しんせい ぶし あしかがたかうじ ばくふ
建武の新政 はじめたけど 武士をおさえれず 足利尊氏 幕府をひらいたよ

むろまちばく さんだいめ よしみつじだい
室町幕府 三代目 義満時代に花ひらく

なんぼくとういつ きんかく かんごうぼうえき ちゃ ゆ い のう きょうげん
南北統一 金閣たてて 勘合貿易はじめたよ 茶の湯に生け花 能 狂言

みん ぼうえき よしみつ
「明との貿易で、義満のやつ、日本の王と名のってるそうじゃ」

「こりゃ、あきまへん」

れきしのうた 3 戦国時代～江戸時代

むろまち とき しょうぐん あしかがよしまさ だいめ なまえ
室町 時の将軍 足利義政 「8代目」 力もなくて名前だけ
「オレは引退する。子どもがいないので、将軍は弟にゆずる」
ゆずった 後に 子どもができて 「あら、たいへん」
あとつぎめぐって 戦がはじまった

おとうと あしかがよしみ ほそかわかつもと
弟 足利義視 をおす 細川勝元
子ども あしかがよしひさ やまなそうぜん
足利義尚 をおす 山名宗全

きょうと いちよんろくなな おうにん らん
京都ではじまる大いくさ、1467 応仁の乱
みだれみだれて、戦国時代 100年つづく 下克上 戦国大名 入りみだれ

「でもオレはいいや。銀閣とかつくって のんびり暮らすわ」
「こりゃ、あきまへん」

しまづ もうり あまご ちょうそかべ
島津に 毛利に 尼子に 長宗我部
みよし あさくら あざい おだ
三好に 朝倉 浅井に 織田
いまがわ たけだ うえすぎ ほうじょう
今川 武田に 上杉 北条 あらそった

のぶなが おけはざま いまがわ てんか いっぽ
信長 桶狭間で 今川うちとって「まさか！」天下に一步 とびぬけた
「足利義昭を 将軍にして、オレがウラから あやつってやる」
さからう義昭 追放 幕府をほろぼして「これまでか」
のぶなが てんか
信長 天下をとるまで あとわずか

ところ^{たんき}が ^{せいかく}短気な性格 わざわいをして、家臣^{かしん}の光秀^{みつひで}に
本能寺^{ほんのうじ}で ^{さいご}ねこみを おそわれた、最後をとげました

むほんの光秀^{みつひで} ゆるすまじ ^{ひでよし}秀吉 これをうちはたす
ライバル^{つぎつぎ} ^{たお}次々 ^{ひでよし}なぎ倒し ^{てんか}秀吉 天下をとりました ^{かんぱくでんか}関白殿下になりました

「次^{つぎ}は中国^{ちゅうごく}の明^{みん}をせめおとす！朝鮮^{ちょうせん}へ兵^{へい}をだすぞ！」

「こりゃ、あきまへん」

^{ひでよし}秀吉 ^{おおさかじょう}大阪城で ^し死^{とき}んだ時「のこされた」あとつぎ^{ひでより}秀頼 ^{ごさい}まだ5才

「これ^{とくがわ}でわが徳川^{てんか}の天下。ゆっくり^{とよとみ}豊臣をつぶしてやろう」

^{とよとみ}豊臣 ^{かしん}家臣の ^{いしだみつなり}石田三成「あやしいぞ」^{いえやす}家康のやぼうを ゆるさんと

^{せいぐん}西軍ひきいて ^{いちろくまるまる}1600 ^{せきがはら}関ヶ原 ^{いえやす}家康ひきいる^{とうぐん}東軍と

^{いくさ}戦をしたけど ^{こばやかわ}小早川にうらぎられ ^{みつなり}三成まけました

^{いちろくまるさん}1603 ^{いえやす}家康は ^{えど}江戸に幕府を ^{ばくふ}ひらきました

^{とよとみ}豊臣つぶし ^{ひでただ}秀忠・^{いえみつ}家光 ^{だい}15代まで続きます

^{にろくよねん}264年の ^{えどじだい}江戸時代

「^{さんきんこうたい}参勤交代に^{ぶけしよはつと}武家諸法度。さからう^{だいまよう}大名は とりつぶしじゃ」

「こりゃ、あきまへん」

れきしのうた 4 幕末～現代

さんぎょうかくめい しょうぐん おうべい うらが
産業革命 植民地「欧米は」ペリーが浦賀に あらわれた
「国をひらいて 条約をむすべ？こんな不平等な条約をか？」

かいこく いくさ おうべいと ばくふ
開国 するか 戦をするか「欧米と」幕府の中は大さわぎ

たいろう なおすけ はんぱくせいりょく あんせい たいごく
大老 直弼 反幕政力たおさんと 安政の大獄すすめて

あんさつ ばくふ
暗殺されて 幕府の力おとろえて このままでは国ほろぶ

ちょうしゅう さつま りょうま さつちょうどうめい
長州 薩摩で国すくえ 龍馬うごいて 薩長同盟

よしのぶ たいせいほうかん じだい
慶喜たまらず 大政奉還 それでもとめれぬ 時代のながれ

めいじいしん
明治維新となりました

さつちょうどひ はん しゅっしんしゃ
「薩長土肥、4つの藩の出身者ばかりが えらくなっておるそうな」

「こりゃ、あきまへん」

はいはんちけん しみんびょうどう きんだいこっか
廃藩置県 四民平等「あたらしい」近代国家をつくらんと

ぶし よ めいじせいふ
「武士の世はどうなる。明治政府のやりかたは ゆるせん」

せいふ ふまん しぞく はんらん さいごうさいご
政府に不満の 士族の反乱「あちこちで」西郷最後におさまった

じゅう びょうどう じゅうみんけんうんどう にほんぜんこく
自由と平等の 自由民権運動 日本全国ひろまって

こっかい だいがっしょう せいふ
国会ひらけと 大合唱 政府をやりこめた

けんぽう てほん ていこくけんぽう
ドイツの憲法 お手本に 帝国憲法つくりました

しゅけん てんのう ていこくぎかい ぎかいせいじ
主権は天皇にあったけれど 帝国議会もひらかれて 議会政治がはじまった

せんきょけん ぜいきん もの
「選挙権があるのは 高い税金を おさめてる者だけじゃそうな」

「こりゃ、あきまへん」

こくりょく おうべい しよくみんち たいりく
国力つけるには 欧米の「マネして」植民地つくれ 大陸へ

ふびようどうじょうやく かいせい ひつよう
「不平等条約の改正には 力が必要じゃ」

ちょうせん にっしんせんそう か にちろせんそう か
朝鮮めぐって 日清戦争「勝ちました」日露戦争も 勝ちました

にほん つよ かしん まんしゅう
日本は強いと 過信して 満州 手に入れようと

にっちゅうせんそう べいえい せんそう
日中戦争 それが ゆるせぬ米英に 戦争 はじめました

おうべいあいて おおいくさ いきお
欧米相手の大戦 はじめは勢い あったけれど

力かなわず ま さいご げんぱく
負けがつづいて 最後は 原爆おとされて

ポツダム宣言うけ入れた

どくりつ きち
「日本は独立させるが、あちこちに アメリカの基地をおくからね」

「こりゃ、あきまへん」

せんごこんらん じだい
戦後混乱の 時代のりこえ

じゅう みるしゅ
自由と民主の 国をつくって

生きてることの よろこび感じる 国は できましたか？